陳 情 文 書 表

受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名	陳情第134号（7. 8. 25） 加齢性難聴者の補聴器購入に対する助成等を求める陳情
陳 情 の 要 旨	1. 加齢性難聴者の補聴器購入に対する市の助成制度を創設すること。 2. 補聴器使用者に対する支援制度（メンテナンスなどの保証制度）を創設すること。 3. 高齢者の難聴を早期に対策する取組を進めること。
陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市長田区 高馬 士郎
送 付 委 員 会	福祉環境委員会

2025年8月25日

神戸市議会議長 菅野 吉記 様

住所 神戸市長田区

氏名

高馬 士郎

電話

加齢性難聴の補聴器購入に助成を願う陳情

【陳情趣旨】

私が補聴器を使いだしたのは10年ほど前の80歳になった頃からです。若いころは良く聞こえる耳だと人に言われましたが、75歳ぐらいのときに聴力検査の結果、高音部の聴力減退を指摘されました。その後だんだんと他人が話す言葉が聞き取れなくなりました。また、一対一の対話でも聞き直さなければならぬ状況となり、耳鼻咽喉科の診断で補聴器をすすめられました。その後、子供からのプレゼントの耳掛け式補聴器(40万円)や集音器(数万円)など試してみましたが、なかなか馴染む事が出来ずに過ごしました。数年前に自費で買い替えた耳穴式補聴器(55万円)が、それまでのものより使いやすく現在は補聴器なしでは人前には出られない状況となっています。

55歳で職場を定年退職後、居住地域などでの社会生活をしてきましたが、他人とのコミュニケーションを取る上で、聴力機能が衰えるのは耐えきれません。補聴器をうまく使えて、体の元気なうちは社会とのつながりを十分にしていきたいものです。身近で同年配の人が同じような難聴となり、補聴器も試したが馴染めずに仲間とのつながりが疎遠になる人を見てきましたが、財政的な補助や使い方のケアが十分に行われていないのが現状だと思います。

【陳情項目】

1. 加齢性難聴者の補聴器購入に対する市の助成制度を創設すること。
2. 補聴器使用者に対する支援制度(メンテナンスなどの保証制度)を創設すること。
3. 高齢者の難聴を早期に対策する取り組みを進めること。